

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第3回上越市立図書館協議会

2 議題等(全件公開)

(1) 報告事項

ア 令和5年度 読書週間の実施結果について (資料1)

イ 令和5年度 図書館の上半期利用状況について (資料2、2-1)

(2) 協議事項

上越市子ども読書活動推進計画(第4次)について (資料3)

3 開催日時

令和5年11月28日(火) 午前10時00分から

4 開催場所

直江津学びの交流館 2階 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：赤松委員、上原委員、内田委員、小埜委員、佐藤委員、清水委員、高野委員、西條委員
- ・事務局：小暮高田図書館長、佐藤副館長、大島副館長、丸山上席司書、山本係長、渡辺直江津図書館長、道場副館長、内山上席司書

7 発言の内容

<上越市立図書館条例施行規則第20条第2項の規定により小埜委員長が議長となる>

○令和5年度 読書週間の実施結果について

事務局 : 別紙資料1により概要説明

議長 : 事務局から説明のありました件について、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

赤松委員 : 私も今日階段メッセージ、なるほどと思いながら上がってきたらいつの間にか3階に行ってしまった、1階に“オチ”があったのだなということがよく分かりました。大変すばらしい読書週間の取組だと思う

のですが、特に夢の本棚がすごくいいなと思いました。何か反響みたいな声があったら、聞かせていただけるとありがたいなと思います。

丸山上席司書：ありがとうございます。夢の本棚につきましては、この事業に合わせてそれぞれ各館で新たなコーナーを設置したため、いつもと違うということでもまず目を引いたところがありました。私も初日にその付近にいて様子を見ていましたが、親子連れでいらしたご家族の方で、小さいお子さんが「いつもと違う」と言って夢の本棚の方に走り寄ってきて、それがすごく嬉しかったです。一つ何か取組をしてうまくいくと、これは良かったと思えば長く続けるということになりがちですが、やはり新規の取組をするということは大切なのだなと今回感じました。あとは、利用者の方から「今すぐ借りられないのか」というお声はいただきました。私どもも企画を考える際に、期間中、貸出しできるようにするか展示のみとするか悩みましたが、貸出しするとコーナーから本がなくなってしまい、また、そのたびに新しい本を追加するということはなかなかできませんので、今回は展示のみという形にしました。ただ、その時すぐに読みたいと思われている方に「予約制度があります」とお伝えしても「今読めないのか、残念」と言われてしまい、それは私どもも悩ましいところではありました。ブックリストについては、たくさんの方からお持ち帰りいただいたようで、足りなくなるのではという嬉しい心配もいたしました。

議長：この資料1の工夫した点のところに、「利用者参加型のテーマ展示」、それから「小林古径記念美術館と連携をした」、「かねてより利用者から要望が寄せられていた講習会が実現した」などありますが、利用者がどういうふうな思いを持っているのか、それを受け止めて展示をしていく、利用者が参加していくというような工夫をされたということによかったと思います。

清水委員：先ほどリサイクルブック市で、高田図書館では今回整理券を配布する初の試みに変えてみたところ、その中でやってみて課題が見えてきたというお話しだったのですが、具体的にどのような課題が見えてきたかを教えていただけるとありがたいなと思います。

丸山上席司書：リサイクルブック市は11月3日金曜日の祝日に行いました。整理券の配布を1週間前から行いましたが、図書館の利用はやはり土曜日、日曜日が圧倒的に多く、また、2週間の貸出期間ですと2週間サイクルでいらっしゃる方が多いと考えられるのに、整理券のお渡しを開始した日が平日で、しかも配布期間は1週間でした。これを目掛けて来館された方もいらっしゃいましたが、やはり多くの方は、土曜日、日曜日にいらっしゃるものですから、整理券配布はそのサイクルを考えた期間にすべきだったという点があります。また、整理券をもらっていないから当日行っても入れないなという思いもおありでしたでしょうし、そもそも読書週間の期間というのは、年間でいろんな方面で一番イベントがある時期で、残念ながら実は図書館が大入りということはありません。リサイクルブック市を読書週間に実施するのがよいのかという話も出てまいりました。さらには、今回一般向きのリサイクルブック市だったので、「子どもの本はないですか」とのお問い合わせが多数ありました。反対に春の子ども向きのリサイクルブック市をすると「一般の本はないですか」という声が寄せられます。そのため、分けずに一緒にする、頸城・浦川原のようにご家族一緒にいらしてそれぞれで好きな本を見つけるという、そういう方法もあるのではないかと考えています。そのほか、整理券を配布して各回入れ替え制として周知しましたが、やはり皆さん、初回が有利だと思われまして、初回は人気となりすぐに整理券がなくなりました。後の回は残り物だからいい本はないだろうと思われ、あまり人気がありませんでした。各回、始まる前に必ず新たに100冊追加していましたが、それについて皆さんに分かるような周知がなかったことも偏った原因かと思いました。いろいろと考えるところがありましたが、開催時期も含めてより良い方法になるように検討したいと思います。

清水委員：実は私、頸城のリサイクルブック市に行きました。ちょうど頸城区文化祭に合わせてということで人も多く、私が行ったときは、本が減ってきたかなという感じはしましたが、実績を見させていただくと大変多かったのだなと思いました。そう見ると大人だけで来ている方も多

かったのですが、お子さんが楽しめる図書館とは別のブースもあったので、親子で来ていて、飾られている作品も一緒に見ながら寄っていくという流れだったのかなと思います。先ほどもおっしゃったようにいろいろな課題の部分ではなかなかどれがいいのかということも難しいと思いますが、そういう意味では頸城では整理券をもらわずとも立ち寄ったときにすぐに「これいいな」と思って持って帰れる方法は良かったかなと思ったのでお聞きしてみました。

議長 : 今のことに関連して、リサイクルブックを受け取る側のことになりま
すけれども、リサイクルブックを集めるというか市民の方からいただ
いてそれを還元していくというその部分であるとか選別であるとか
はどのようになっているのでしょうか。

丸山上席司書 : リサイクルブック市で提供した本は、玄関に設置したリサイクルボッ
クスに日々、市民の方から頂戴した本です。これについては以前の図
書館協議会でお話ししたことがあります。中には利用ができないよ
うな資料があつたりします。私たちがその場にはいないところで受け取
ることになりますので、私たちがいるところで受け取れるような機会
を設けて集めるとか、もしくは持ってきた方から「自分の本です」と
いうことで参加してもらってリサイクルブック市を行うこともあり得
るかなと、そういうことも考えたりなどはしてはおります。

議長 : リサイクルのサイクルを回していくためには、持ってきてくださいと
いうようなこともどこかでお伝えできるといいなと思います。

丸山上席司書 : そうですね。今回図書館だよりパピルスの12月号にリサイクルブック
について記事を掲載することになっております。お持ちいただくこと
はありがたいのですが、先ほど申し上げたとおり、実際に受け取りで
きないとか、処分してしまうような資料があります。お持ち込みされ
る方は利用してもらえらることを期待してお持ち込みいただいている訳
ですので、そういう残念なことが起こらないように皆さんにお知らせ
することにしています。

- 事務局 : 別紙資料 2 及び 2-1 により概要説明
- 議長 : 個別の利用実績を見ると、頸城の新規登録者数は数値的にはプラスになっているところかなと思います。それぞれ連携されていると思いますので、増加要因などを情報交換されるといいかなと思います。

○上越市子ども読書活動推進計画（第4次）について

- 事務局 : 別紙資料 3 により概要説明
- 議長 : 市議会などでこれから議論もあるのですが、何を続けて何を強化し行動するのか、第4次で何を重点化して第3次とは何が違うのか、どういうところを取り組んでいくのか、そこを確認されるのではないかと思うのですが、第3次とどういう違いがあると説明されるのでしょうか。
- 大島副館長 : 第3次計画につきましては、計画期間がほぼコロナの影響を受けてしまい、計画どおりに進まなかったというところがありますので、方策としてはそのまま継続をしております。ですから第3次計画から大きく取組内容を変えているというところは基本的にはございません。ただ、電子書籍についてはこれから進めていかなければならないものの、今はまだ検討段階ということもあり、なかなか思い切った記載ができないところでございます。あとは、今回課題として明確に書いた部分では、中高生に対しての取組が弱いため、中高生に対してのアプローチを考えていくということを上立図書館の取組の中に記載させていただきました。第3次との違いといえばそういったところになってくるかと思いますが、第3次計画を基本的には継続していくということで説明していく予定です。
- 赤松委員 : 前回の会議録を読ませていただいて、私たちの小さな意見にも真摯に検討して修正していただいてありがたいなと思いました。
- 「はじめに」のところでも前回いろいろ言わせていただきましたが、もう一言だけお願いします。最後の「施策を実施することで、より多くの子どもたちが読書の楽しさに気付いてくれたら… そんなふうに考えています」のところですか。これでいいのですが、何かこう「はじめ

に」というところの全体の思いみたいなものが出てくるといいなと思うので、「考えています」ではなくて、「願います」とか、「そんな姿を願います」とか「そう願います」とか、全体で子どもたちのこういう姿を目指していくのだという思いみたいなものがここであると更にいいなと感じたところです。個人的な感想なので意見ということではありませんが一言申し上げさせていただきました。

小暮館長 : ありがとうございます。「はじめに」についてはいろいろ直したり戻したりありました。また、今後そういったような意見も出てくるかもしれないし、読み直してみたらやっぱりこうがいいよねということになるかもしれないので、より良くなるように考えていきたいと思っています。

議長 : 今、赤松委員が言われたように、前回の協議会の中での私たちの思いというのをそれぞれ対応していただいて、かなり書き換えをしていただいている部分もあるかと思います。ご苦勞があったのだらうなというふうに思います。

図書館の運営は、今度7年間の計画になりますので、一つの曲がり角になるのかなという思いはしています。第3次とほぼ同じような取組というふうにお考えになっている、それは承知しておりますが、中高生の取組の強化という視点では連携の強化があると思いました。図書館の持っている教育機能の強化というのも学校図書館やほかの施設とより連携し協力しながら強くしていく。それから前回の委員の意見にすべての人にやさしい支援というような言葉も出ていましたが、そういう方への支援も進めていくことが必要かなと。それから、情報発信も第3次よりも強めていきたいというような、そういった説明ぶりになるのかなと思っていました。そのほか言えないことや、書けないこともあり、この辺りが難しいですけれども、目標についてもいろんな意見が出てくると思います。定量的な目標と定性的な目標というのがあって、定量というのは数値の目標、これは非常に出しにくいですがいくつか出していただく。もう一つ検証しにくいのですが、定性的な質の向上というのをどういうふうに評価していくのかということもあ

ります。それは数値に現れないから目標には出せないとお考えなのかもしれませんが、やっぱり質的な変化というのを目標にすることも必要かなと思いますので、判断いただいて、出した方がいいなということであればまたご提示いただければと思います。

小暮館長 : ありがとうございます。質的というのはなかなか難しいので、目標は数字で判断できるものを載せておりますが、ほかにいいものがあれば検討したいと考えています。

議長 : もう一つ伺いたいのですが。この計画の終期が他の上位計画と同じ年度で重ねられていますが、これは大丈夫ですか。そういう上位の計画があってそれを受けてこの次の（上越市子ども読書活動）推進計画を出していくという、今までは1年遅れだったと思うのですが。終期を同じにすると次の計画の開始が上位計画と同時にになりますが。

大島副館長 : 必ずしも毎回1年遅れというわけではありませんでしたが、そこは悩ましいところもあり、実際、第3次計画も当初は同じ終期としていたものを結果的には1年延長いたしました。とはいえ、同じタイミングで今後のことを考えた方がより全体的なことを考えられるという利点もありますので、そういったことから今は終期を同じにしております。計画期間が長いので、途中で見直しについて検討すると書かせていただいております、その時点で支障があるようであれば終期を伸ばすということも考えられると思いますので、まずは他の計画と終期を合わせた形でやってみたいと考えているところです。

議長 : 終期を合わせるのはいいのですが、終期を合わせると始めも合わせることになりますので、それは上位の計画が出てからそこに1年のタイムラグがあった方が計画をつくりやすいということもあるのかなと思っていましたが、その辺は大丈夫ですね。

大島副館長 : 最終年度となる年に、総合計画にしても教育プランにしても考えていくこととなります。そのときに合わせて、図書館としての取組を全体像として見て、組み立てていくことができるというふうに思っておりますので、その辺りは問題ないと考えています。第4次の策定にあたっては、総合計画等の策定を待ったということもありますが、コロナ

禍がどう落ち着いていくかが見えなかったところもありましたので、第3次計画を1年延長し、第4次は来年度からといたしました。そういった要因がなければ、他の計画と合わせて一緒に考えて、スタートも一緒にしていたと思われまますので対応できる部分だと思っております。

議長 : ありがとうございます。安心しました。

わくわくを見つけてもらうために、例えば図書館の本や学校図書館の本を使った読書感想文、文芸作品だけでなくいいと思うのですが、いろんなものを見て、その子が生涯にわたって図書館でいろんなことを勉強して学んでいくというような機会をつかんでもらいたいという、それが私たちの願いですから、そういう意味で本を探して手に取って、書いてもらった文章をコンクールという形で、自分の好きなものを見つけてもらう機会をつくるような取組が図書館であるといいかなと思っております。それを目標の中に具体的に書くかどうかは別にして、今回の夢の本棚もそうですが、新しい取組を入れていって、そして、結局そういうことをするのは面倒を引き受けることになるので、働き方改革と調整しながらになりますけれども、必要なことをどう取り込んでいくのか、そしてそれを推進計画の中に入れていくのか入っていないのか、そんなことが最終的なことになるのかと思います。

大島副館長 : 具体的な取組までを計画の中に入れる想定はしていませんが、委員長のご意見にありました利用者から参加してもらう催しは、何かしらやっていたらと思っております。今年、高田図書館に職場体験で来られた中学生にお薦めの本のポップを書いてもらう取組をやってみました。感想文というと大変だと思われてもいけないので、以前、県で高校生のポップコンテストをやっておりましたが、上越市独自のそういったものは考えられるのかなと思います。ご意見は今後の事業展開の参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。

(議事終了)

事務局 : 次回の図書館協議会は2月末もしくは3月上旬頃を予定しております。日程が決まりましたら改めてご案内させていただきます。

以上を持ちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。